

△ヒダントールF配合錠 [内]

【重要度】★★ 【一般製剤名】特徴参照 phenytoin, phenobarbital 【分類】抗てんかん剤

【単位】△錠

【常用量】6～12錠/日

【用法】分割投与

【透析患者への投与方法】やや減量して投与開始しTDMを実施する (5) 透析患者ではフェニトインの蛋白結合率低下に注意 (5)

【保存期CKD患者への投与方法】Ccr10mL/min以上：減量の必要なし，Ccr<10mL/min：やや減量して投与開始しTDMを実施する (5)

【特徴】12錠中、フェニトイン300mg、フェノバルビタール100mg、安息香酸Na カフェイン200mg含有。抗てんかん薬のフェニトインに催眠、鎮静、抗痙攣薬のフェノバルビタールを配合した錠剤。安息香酸Na カフェインはフェノバルビタールによる眠気を軽減あるいは防止する目的で配合したものである。

【主な副作用・毒性】SJS, TEN, SLE 症状, 過敏症症候群, 血球減少, 間質性肺炎, 肝障害, 精神神経症状, 消化器症状など

【透析性】フェノバルビタールは透析される (1)

【TDMのポイント】フェニトイン、フェノバルビタールともにTDMの対象薬である。各成分の【TDMのポイント】を参照されたい [pKa] 8.3 (1)

【更新日】20170123

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。